

増して、遂に七城を成すに至り、人口三十五萬と稱せられ、殷賑繁華を極めしが、端なく同治の回亂は各城悲惨の破壊を受け、漢滿人其の大部分虐殺せられて、城は唯壊壁碎瓦の堆積するものと變じ、民屋悉く燼灰焦土と化し去りしも、爾來清廷頻に、城壁を修め、且つ移民を奨励せし爲め漸次舊態に復し、現今約二十萬人を有するに至り、其の要衝たると共に、又省内人口稠密の一區と爲れり。

惠遠城

惠遠城ホイニョワンは東徑八十度五十八分、北緯四十三度四十五分、省會に至る二百三十五里、北京を距ること實に千五百六十九里に在り。現今の城壁は光緒初年の新築に係り、舊城の北方約十數町の處に當る。城内には伊犁將軍衙門を置き、下に副都統及び察哈爾チャハル、索倫ソロン、錫伯シキ、額魯特エルトの四領隊大臣、新滿營、舊滿營、協臺等の衙門及電報局、官錢局等備はりて、人家約一千七百戸、內滿人六百戸、新滿人四百戸、漢人纏頭六百戸を有し、街路廣濶、下水縱横に通し、其の清潔なること省内第一とす。以上の外、錫伯人は伊犁河の左岸に散居し、之を八牛录ニユールに分つて、總計約二萬人と註せられ、索倫人は、城の西北約五里なる、索倫營に住みて、總計約八百人、又額魯特人は、南方天山の山中に、察哈爾人は、塔爾奇山中に、而して哈薩克は、伊犁河の上流に、竝に游牧